

慈悲

岡本かの子

青空文庫

ひとくちに慈悲ぶかい人といえ、誰にでもものを遣る人、誰のいうことをも直ぐ聞き入れてやる人、何事も他人の為に辞せない人、こう極^きめて仕舞うのが普通でしょう。それはそうに違いないでしょう、それが慈悲ぶかい人の他人に対する原則ですから。

然し、原則というのは結局原則であります。ものごとが凡て、原則どおり単純に行つて済むのなら世の中は案外やさしいものです。お医者でも原則通りですべて病人が都合よく処理出来るなら、どのお医者でもみな病理学研究室に閉じこもつて居れば世話はありません。なにも、面倒な臨床学など習つて実地研究の何年間など費^{ついで}す必要は無いわけです。処^{ついで}が、その必要がある。ありますと

も、其^{そこ}処^こが臨機応変、仏教のいわゆる、「時^じ、処^{しょ}、位^い」に適する方法に於いて原則を實地に応用しなければなりません。

本当の慈悲とは、此^{ここ}処^こに本当にものを与えるに適當な事情を持つ人がある。その時、その人に適當な程のものを与へる。それが本当の慈悲であります。ここに一人の怠^{たい}け者^{しや}があつて、それが口を上手にして縫^ぬつて来たとする。その口^{くち}上^{じやう}手^ずに乗^のぜられ、ものをやったとする。それは慈悲に似て非なるものであります。おだてに乗^のつた、うかつものの愚^ぐな所^{しよ}行^{ぎやう}です。そんな時、ものを遣^やる代^たりに、そのなまけ者^{なまけしや}のお上手^{お上手}者の頼^{たの}みに平手^{へい}の一つも見舞^{みま}つてやる。誠^{まこと}めになり発憤^{はつふん}剤^{ざい}になるかもしれませぬ。その方が本当の慈悲^{ひじ}です。

人の云うことを聞けば宜いと云つて人を甘やかすばかりが慈悲ではありません。お砂糖ばかりで煮たお料理は却つてまずい。ひとつまみの塩を入れてたちまち味の調和がとれるではありませんか。時には、いつくしみのなかに味ひとつまみの小言もいれなくては完全な慈悲とはならないでしょう。

愛情ばかりで智慧の判断の伴わない慈悲は往々にしてまた利己主義の慈悲になります。折角、自分は善良な慈悲心でして居るつもりなのですが、利己主義の慈悲心になつては残念です。

トルストイの作品のうちにあつた例だと思ひます。何の職業をして居る人だったか忘れましたが、とにかく慈悲を心がけて暮らして居る或る男がありました。或る冬の夜、非常に天候が荒れ

(或いは雪の夜だったかもしれません) ました。慈悲深い男は、家外の寒さを思い遣り乍ら室内のストーヴの火に暖を採り、椅子にふかふかと身を埋めて静に読書して居りました。と、家外の吹雪の中に一人のヴァイオリン弾きの老爺の乞食が立ち、やがてそれは寒さのために縮んで主人の室の硝子扉に貼りつくように体を寄せました。主人はもとより慈悲の心で生きて居る人です。しばらくヴァイオリン弾きの乞食姿をあわれと思つて見て居りましたが、やがて意を決して硝子扉を開けました。主人はそして、ひたすら恐縮するヴァイオリン弾きを室内へ招じ、暖い喰べものを与え、ストーヴの火をどんどん焚き足して長時間吹雪のなかにさすらつてごこえて来た乞食の老爺の体をあたためて遣りました。

翌日、その翌日となり雪は晴れ道もよくなりました。ヴァイオリン弾きの老爺はしきりに主人の邸内から辞してまたさすらいの旅に出ようとなりました。しかし、主人はきき入れませんでした。何処までも、自分の邸内にとどめて可哀想な乞食音楽師を安楽に暮らさせ様と心掛けました。それにもかかわらず老爺のヴァイオリン弾きはしきりに辞去したがる。するとなおさら主人は引きとめる。ほとんど強制的にひきとめる。

ある夜、主人はヴァイオリン弾きの老爺が、突然無断で邸内から抜け出し、何処とも知らず、逃げ失せたのを知りました。「ああ、彼は、矢張り空飛ぶ鳥であったか。」こう気がついたのは、主人であったか、読者たる私であったか忘れましたが、とにかく

利己主義な慈悲の例証にこの話は役立つものです。即ち、主人は、ヴァイオリン弾きの本質を達観し得なかつた。彼の放浪的な運命をつくつた性格を見透さみとおなかつた。彼の生き方は、どんな憂き艱難をしても、野に山に、街に部落にさすらつて歩くのがその性質に合う生き方なのでした。そういうものには、そうさせて置くのが好いのです。彼の幸福は、決して暖衣飽食して富家に飼われ養われて居る生活のなかには感じられなかつたのです。彼は主人に引き留められて居るうちどんなに窮屈であり、旅が、さすらいが恋しかつたか知れないのです。彼は主人の好意がむしろ迷惑だつたでしょう。主人の慈悲は彼に取つてむしろ無くもがなの邪魔だつたでしょう。

それにもかかわらず、主人は自分が慈悲を行って居ることに満足を感じて居たでしょう。自分の「志」を立てることばかり考えて居た主人は、それがために相手が、どんな不自由や迷惑を感じて居るかに気がつかなかったのです。つまり自己満足、利己主義の慈悲とはこういうことなのです。

有がた迷惑の好意についても一つ云えば、某外国に一百六十歳近い長寿者がありました。皇室ではそれをよみせられ、召し上げられて飽衣美食でもてなしました。長寿者はたちまち死にました。粗食故に長寿して居た生命が、美食に遇ってたちまち破損して仕舞ったのだそうです。

要するに本当の慈悲とは、相手の立場や本質を考え、自分の慈

善的感情本位でない施行ほどこしに於いて本然の達成が遂げられるので
す。

青空文庫情報

底本：「日本の名随筆13 心」作品社

1984（昭和59）年2月25日第1刷発行

1990（平成2）年10月31日第15刷発行

入力：渡邊つよし

校正：菅野朋子

2000年6月3日公開

2012年12月10日修正

青空文庫作成ファイル：このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、

校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

慈悲

岡本かの子

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>